

意思統一をして、声たからかに！！

「東海第二原発の再稼働を許さない 廃炉に」

全県規模で取り組もう！

現在、定期点検中の東海第二原発は、「東日本大震災で損傷したタービンの修理が必要」として、11月14日の終了時期を延長することが発表されました。終了時期は未定としています。

その一方、新聞大の大判・厚紙で、「東海第二発電所では、津波などに対する安全対策を強化しています（表）」「皆さまからのご質問にお答えいたします（裏）」、原発周辺の市町村

に4万枚ものビラを新聞に折り込みするなど、東海原子炉再稼働の準備を進めています。

しかし、「そもそも原発は事故が起るのもの」で「起ったら命やする自然や環境そのものが破壊される」という、私たちの不安には答えていません。原子炉は再稼働の準備を進めています。

◆ 「東海第二原発の廃炉を求める署名」にとりくもう！！

- ・「署名用紙」は、印刷して使う。会員1人あたり20筆目標。手元がない場合は、県委員会に連絡する。
- ・対策委員会で作成したチラシが4種類ある。県委員会に連絡する。
- ・チラシ配布、駅頭署名にとりくむ。可能な場合「宣伝カー」を地域にまわす。

◆ 「東海第二原発の再稼働を許さない 廃炉に」の意見広告の賛同者を募ろう！！

- ・「呼びかけ文」「チラシ」は、9月末に、各平和の会・平和委員会に送付する。
- ・11月20日（日）「茨城新聞」に掲載予定

◆ 「東海原発の再稼働を許さない 廃炉に」県民集会に参加しよう！！

- ・11月20日（日）午後1時～ 会場：茨城県青少年会館・大研修室（県歴館前）
- ・講師はルポや写真で有名な「森住 卓（もりずみ たかし）氏」を予定



署名中間報告

『東海第二原発の廃炉をもとめる署名』

9月20日現在、県平和委員会に届いている署名は、美和・緒川平和の会、東海平和委員会、内原・友部平和の会、石岡平和の会から届けられたもので下記の状況です。

- ・東海第二原発の廃炉をもとめる署名
茨城県知事宛：385筆
衆・参議員議長宛：190筆
- ・核兵器全面禁止アピール：178筆
- ・高江でのヘリパッド工事中止を求める要請：69筆

東電の異常な賠償手続き

東京電力が、被害者に送った損害賠償手続き書類は、請求書式が60ページ、説明書が160ページ、重さ2kgくらいあるといます。とても、普通の庶民が読みこなして、作成できるような代物ではないという声があがっています。よほど事務能力に長けており、時間のある人でもなければ、請求自体が不可能ではないかと思われる代物です。一般の被害者に不可能なハードルを示して、賠償請求をあきらめさせようともいうのでしょうか。

計画停電といい、国会への黒塗りマニュアル提出といい、電力会社の体質は、かなりの傲慢さが目につきます。

日弁連がこの事態に動き出していますが、損害賠償手続きについて、被害者に対するきめ細かい援助が必要です。

2011年 日本平和大会 in 沖縄 学習パンフレット

『いま私たちの進むべき道は？』

発行：2011年日本平和大会実行委員会

編集：日本平和委員会

大震災・原発・沖縄・安保



沖縄から全国へ
米軍基地も軍事同盟もない
憲法の輝く日本を！

学習パンフ（頒価300円）をうんと広げよう！

【ナパーム弾を装着して
離陸するF A 1 8戦闘攻
撃機 = 8月31日午後1
時34分、米軍嘉手納基
地（諸見里真利氏撮影）】



歓迎！新入会員のみなさんです。
宜しくお願いします。

刈田 茂 さん（鹿嶋市）
大橋 詔子 さん（大洗町）

各平和の会（平和委員会）のみなさん一人ひとりの力で、
月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2011年9月25日(日曜日)

1967号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 605

2011.9/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

「脱原発」

6万人の最大規模集会

作家の大江健三郎さんらが呼び掛けた脱原発を求める「さようなら原発5万人集会」が19日、東京・明治公園で開かれ、約6万人（主催者発表）が参加した。東京電力福島第1原発事故後の集会では最大規模。廃炉に向けて活動している福島県の市民団体メンバーや大江さんらが口々に「原発はいらない」と訴えた。

「ハイロアクション福島原発40年実行委員会」の武藤類子さん(58)は、原発事故からの半年を「逃げる、逃げない。食べる、食べない。日々、いや応なしに決断を迫られた」と振り返った。大江さんやルポライターの鎌田慧さん、作家の落合恵子さんらもそれぞれに脱原発を呼び掛けた。



【集会のスナップ】



9.19 東京・明治公園にて

広場いっぱい埋め尽くした人…人…ひと…

第3回「看護のよろこびと医療の未来を考える」フォーラム

講演：『笑顔はひとをしあわせにする』

臨床道化師の立場から

講師：塚原成幸さん

(臨床道化師・日本クリニックラウン協会事務局長・アーティスティックディレクター)

10月23日(日) 14:00～16:30

茨城県開発公社ビル3F会議室

(水戸市笠原町978-25)

029-301-7000(茨城県庁北側)

参加費無料：どなたでも参加できます

連絡先：茨城民医連 (029-228-0600)

全日本民医連発行

原発問題学習パンフレット 2011

『福島第一原発事故から

何を学び、取り組むのか』

編集：全日本民医連緊急被曝事故対策本部会議

定価：50円

【シリーズ】 わが街 わか会員

水戸市 / 安本 真理子 さん (みとみなみ平和の会)



私は絵本や児童書が大好きです。色づかいも物語も自由で、動物のことが話せたり、鳥たちと一緒に旅に出たり、魔法だって使えちゃう！おまけに楽しい思い出までついてくるなんて、他にはないと思いませんか(-) そんな本たちとの出会いを子どもたちにもと、娘の通う小学校ではじめて読みかせも今年で10年。当時3年生だった娘は、19歳になります。

子どもたちの反応は、正直です。こちらが「ちょっとつまらなかったかな・・・」と思って読んでいるとソワソワし出しますし、伝えたい気持ちを込めて読んでいると、グッと近づいてきてくれます。私がまだ小学生の頃「ガラスのうさぎ」「ふたりのイーダ」「おこりじぞう」「はだしのゲン」・・・と、いい映画をたくさん見せてもらいました。どの主人公もささやかだけれど、毎日を生懸命に生き、幸せな時間を過ごしていたのに、一瞬にして戦争は大切な家族を奪い、友達を奪い、そして主人公の命までも奪ってしまう。「戦争は、なんて理不尽なんだ!」「戦争を起こす人は許せない!」と強く思ったのを覚えています。それがわたしの「平和のたね」となり、今の活動につながっているのかもしれない。

わたしも今の子どもたちに「平和のたね」を手渡せたらと、第五福竜丸を題材にした「ここが家だ」や「かわいそうなぞう」を手に教室に向います。さて、2学期最初の読み聞かせは「どの本 読もうかな?」

何を学ぶのか

- ①放射線が人体に及ぼす影響を知る。
- ②周辺地域の住民の方の不安や恐怖に横たわるものをつかむ。
- ③今回の事故の問題点と今後の対応のあり方を考える。



連絡先：茨城民医連 (029-228-0600)